

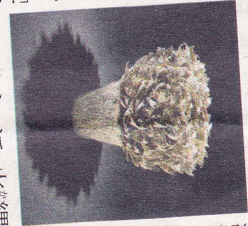


福岡 伸一

縄文器の美を「発見」したのは岡本太郎である。1951年の秋、偶然、縄文器を目にした彼は電撃的な衝撃を受けた。そのときの思いをこう書いている。「わたしの皿の中に力がこぼれ起るのを

覚えた」「激し追いかぎの重なり合つて隆起し下降し、旋廻する隆線紋。これでもかこれでもかと執拗に迫る緊張感、しかも純粹に透つた神祕の鋭さ。常々芸術の本質として超自然的激趣を主張する私できえ、思わず吐びださる震みである」(「縄文器論」)

この、だるもつた渦の運動がある臨界点を超えて解き放たれたとき、それはどくへ向かうのだらうか。室伏広選手が力一杯に投げたハンマーの軌跡を思い起すばかり。旋回運動はその求心力を切に守るべき。断ざれた隣間、ペクトルは周囲の接線に沿つてまっすぐ外へ向かうのだ。岡本太郎が血の中に感じた力、隆起、緊張、激越、そして吐びの本質もここにあり。



火焔の中に一気、外側へ射出されるべきエネルギーを秘めていくのだ。

岡本太郎自身は、「太陽の塔」や「明日の神話」に代表されるように、縄文的なエネルギーをそのまま巨大な旋回どろねのパートとして爆発的に作品に込めてみせた。

ただし現代の美術家ならば、この挑戦をどよよに受け止めるだろう。大英博物館の日本キヤタリには、新潟県津南町・室伏跡出土の兎事な火焔式縄文土器が飾られているが、そのかたわらに「細野仁美による「羽根の葉の器」(2013年)写真」という作品が並びなが

て置かれている。行き場を求めて渦巻く縄文の原始的な旋回のエネルギーが、ここでは美にエリガントに、そして優美に昇華され、繊細なフグメントとして奏

でらう。この対比の妙を演出したキョリターのエスプリに、思わず唖然させられた。(生物学者)

©The Trustees of the British Museum

芸術と科学のあいだ

2014年 (38)

渦巻く縄文の美、優美に昇華

陸田 登志郎

福岡 伸一

縄文器の美を「発見」したのは岡本太郎である。1951年の秋、偶然、縄文器を目にした彼は電撃的な衝撃を受けた。そのときの思いをこう書いている。「わたしの皿の中に力がこぼれ起るのを

覚えた」「激し追いかぎの重なり合つて隆起し下降し、旋廻する隆線紋。これでもかこれでもかと執物に迫る緊張感、しかも純粹に透つた神祕の鋭さ。常々芸術の本質として超自然的激趣を主張する私できえ、思はず吐びだつたる凄みである」(「縄文器論」)

この、だるもつた渦の運動がある臨界点を超えて解き放たれたとき、それはどいへ向かうだろうか。室伏広選手がカ一杯に投げたハンマーの軌跡を思い起し、二せきよい。旋回運動はその求心を切断された隣間、ベクトルは周囲の接線に沿つてまっすぐ外へ向かうのだ。岡本太郎が血の中に感じた力、隆起、緊張、激越、そして吐びの本質もここにあり。



縄文土器はその火焔の中に一気炎の外側へ射出されるべきエネルギーを秘めていたのだ。

岡本太郎自身は、「太陽の塔」や「明日の神話」に代表されるように、縄文的なエネルギーをそのまま巨大な旋回どろねのパートとして爆発的に作品にぶつけてみせた。

ただし現代の美術家はらば、この挑戦をどよよに受け止めるだろう。大英博物館の日本キヤムリーには、新潟県津南町・室蓋遺跡出土の縄文火焔式縄文土器が飾られているが、そのかたわらに「細野仁美による「羽根の葉の器」(2013年)写真」という作品が並びなが

ら置かれている。行き場を求めて渦巻く縄文の原始的な旋回エネルギーが、ここでは美にエリガントに、そして優美に昇華され、繊細なフグメントとして奏

だつ。この対比の妙を演出したキムリターのエスプリに、思はず脱帽せざる

れた。(生物学者)
©The Trustees of the British Museum

芸術と科学のあいだ

2014年 (38)

渦巻く縄文の美、優美に昇華

陸田 登志郎 著